

茅ヶ崎セントラルクリニック

原 はるか(看護師 / 看護部)

功 績 毎日の患者さんとの関わりの中での気づきを大切に、常に施設理念である「家庭的で心の通った看護」を提供するために必要なことは何かを模索し続けた結果、EASEプログラムに目を付け、自ら勉強し、クリニック内でEASEプログラムを広めた功績

推 薦 者 若林陽盛

推 薦 理 由 看護師としての基礎的な業務内容の遂行に加え、施設理念である「家庭的で心の通った看護」を形にしようとする姿勢、行動は理事長賞に値すると思え推薦いたします。

内 容

原は入職5年目の看護師です。柔らかい物腰と常に笑顔を絶やさない接遇で、多くの患者さんに愛されている職員です。入職して日々の業務をこなしている中で、原は日常生活の中で「わかっているけどできない」行動で苦労している患者さんを多く見てきました。水分を取ってはいけけないのは分かっているけどつい沢山飲んでしまう、食べてはいけけないと頭ではわかっているけど腎臓に負担のかかる食べ物を食べてしまう。そうして次回の透析時には体にたまった水分がむくみとなり、多量の除水をしなければならない。その繰り返しを何度も歯がゆい思いで見えてきました。

そこで原は患者さんの行動変容を促すためにはどんなアプローチがあるのか、自ら文献や論文などを調べ、EASEプログラムに行きつきました。EASEプログラムとは、学習理論、認知行動療法、保健行動モデルを参考にした食事・水分管理などのセルフケア行動を変容させていく実践的なプログラムです。透析の患者さんのセルフケア行動に変化をもたらすための手法としてこのEASEプログラムを学び、日々の業務に活かしていくことで、一人でも多くの患者さんに苦しめない透析を提供できると考え、今年度はEASEプログラムの初級研修を行うことにしました。また、学びを通じて自らが講師となり、同僚の看護師含め、臨床工学技士、看護助手、そして事務職員に対して院内研修を実施しました。

自分の想いを形にし、同じ目的のために働く同僚のために知識の共有を行う看護師としての姿勢は理事長賞に相応しいと考え、推薦いたします。